

TOPICS

1

私たちが目指すありたい姿と未来

岡山大学ビジョン3.0・岡山大学長期ビジョン2050

岡山大学の理念「高度な知の創成と的確な知の継承」
岡山大学の目的「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」

長期ビジョン2050（～2050）：地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学
岡山大学ビジョン3.0(2022～2027)：ありたい未来を共に育み、共に創る研究大学

SDGs大学経営：SDGsへの貢献を大学経営の中核に置き、教育研究・産学共創を一体的に改革して新たな事業モデルを展開

グローバル・エンゲージメント戦略

国際機関等多様なステークホルダーと協働し、グローバル・エンゲージメントの強化

岡山大学DX推進プラン：デジタルトランスフォーメーション（DX）for SDGs

教 育

「主体的に変容し続ける先駆者」の育成

- ・大学院教育改革
- ・学士課程と高大接続の一体改革
(Target2025)
- ・リカレント教育の充実

研究・産学共創

研究成果の社会実装を促進し社会課題解決

- ・若手研究者が自由な発想で挑戦的研究に取り組める環境の整備
- ・学内におけるイノベーション創出機能の集約化と強化

大学経営

変化に強い強靱な組織へ

- ・ERMによるガバナンス体制の強化
- ・ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- ・インナーブランディングの強化
- ・大学病院経営の健全化、財源の多様化、自律的な法人経営



参考 <https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/ou-vision.html>

私たちが生きるこの地球では、さまざまなことが日々起こっています。それは短期的なこと、長期的なこと、さらに現在の人類の英知では解決できないことなど、さまざまです。その中で、世界規模の異常気象・自然災害の急増に加え、エネルギー供給の不安定化など、人類はエネルギー、環境、食糧、人口問題等で未曾有の危機に直面しています。また、わが国においても経済安全保障や産業構造などの点において課題が山積しています。

このような状況の中、私たち岡山大学は、「地球と生態系の健康(Planetary Health)」の実現に向け、地域と地球の「ありたい未来の共創」に貢献することを使命とし、その使命達成のために2022年4月に**長期ビジョン2050「地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」**を掲げ、卓越性とイノベーション創出機能の強化により、ビジョン実現に向けて取り組んでいます。

卓越性は、ビジョン実現のための強みある3領域で実施しています。第1、2領域は、「**光合成・植物科学領域**」の深化と「**材料・エネルギー領域**」の融合から世界初の光合成の機構解明や人工光合成・新素材開発等の課題解決のブレークスルーとなる新知見を生み、イニシアチブを確立すること。これは100年先を見据え、50年後に極限環境下で、100年後に地球外で自在に活動し、動植物を含んだ生命活動の維持を実現する高い技術と環境の創出を目指す点にあります。

第3領域は、「**医学・臨床医学領域**」です。国家プロジェクトの参画と自治体・企業等との連携でデジタル技術の活用と規制緩和を進め、医療制度や生活様式を変革するイノベーションを起こすことです。

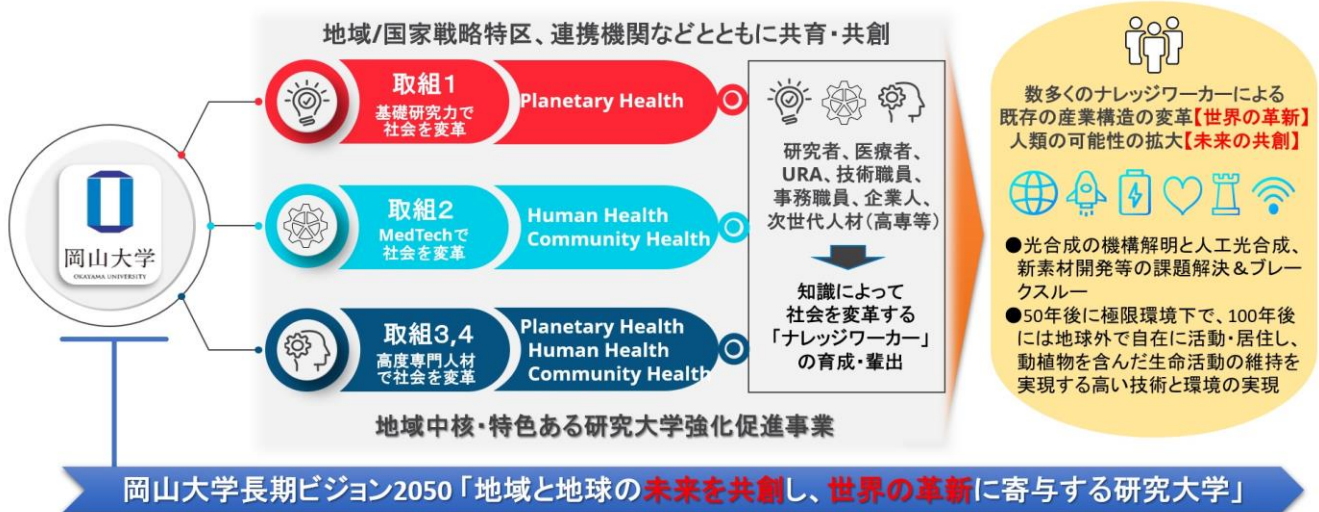
これらの3領域は研究IR分析と地域等のステークホルダーらとの協議から導きだされた領域であり、その行動においても常に長期ビジョン2050を念頭に置いています。

私たちが目指すありたい姿と未来



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY
世界への扉を開く

他方で、私たち岡山大学の研究・イノベーションの“力”だけでは、ありたい姿・未来のために社会課題を解決させる、社会変革をもたらすことは不可能です。そのため、アカデミア発の知見と共創の場を求めて企業などから多様な人材が集まり、ともに世界的地球環境課題（食料・エネルギー危機・地域医療等）に向き合う、卓越した研究力とイノベーション力を兼ね備えた地域中核・特色ある研究大学として、「**知識によって社会を変革するナレッジワーカー（知識労働者）**」を育成・輩出し、研究・イノベーションの叡智で地球と生態系の健康（Planetary Health）、Well-being・人の健康（Human Health）及び安心・安全に暮らせる地域の健康（Community Health）の実現と、そのための社会変革を実現させます。



研究力向上・イノベーション創出強化、そしてナレッジワーカーの育成と輩出。これらは地域とともに創り上げていくものでありますが、まずは**私たち岡山大学が変わらなければいけません**。従来の旧態依然とした思考、決断せずに時間とコストだけを浪費する物事、教員中心の大学、そして法人全体に浸透していないありたい姿・未来。これらを迅速かつ効果的に変えるために地域中核・特色ある研究大学強化促進事業を活用します。そして「**新しい学問の府**」を築くとともに、真に社会変革を成し得る研究大学：岡山大学へと昇華し、ありたい姿・未来をステークホルダーらとともに実現させます。

失敗を重ねた先にありたい姿・未来がある。失敗を恐れずに、挑戦し続ける私たち岡山大学にどうぞご期待ください。

（次号から具体的な取組内容について、順次ご紹介いたします）

参考 文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」に採択～地域と地球の未来を共創し、世界の革新の中核となる研究大学：岡山大学の実現を加速とともに世界に誇れる我が国の研究大学の山脈を築く～
https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12723.html



参考 岡山大学広報「いちよう並木」Vol.105 J-PEAKS採択特別企画 世界に誇れる研究大学の山脈を築く
https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12963.html

参考 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業令和5（2023）年度採択大学取組内容（JSPS）

<https://www.jsps.go.jp/j-chukaku/saitakudaigaku.html>



TOPICS
2令和6年度「TCカレッジ」に技術職員5人が参加
～技術職員の高度化「高度専門系専門職員人財の養成」に向けて～

「令和6年度TCカレッジ」の入学式、オリエンテーション等が挙行され、本学から新たに5人の技術職員が受講生として出席しました。TCカレッジは、令和3年度から東京工業大学で始まった技術職員を対象とした高度人財育成プログラムで、高い技術力・研究企画力を持つ技術職員をテクニカルコンダクター（TC）として認定する制度です。本学は令和4年度から参画。サテライト校として「医工系コース」も担当しており、技術職員の「高度化」を推進しています。

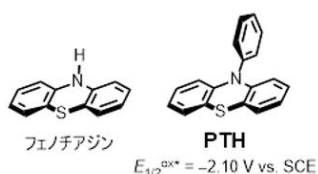
J-PEAKSの取組でも技術職員の高度化やキャリアパスの整備促進を実施しており、その一環となります。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13050.html

TOPICS
3

可視光をエネルギー源として活用できる！新たな有機光触媒の開発に成功～高い還元力、安定性、汎用性を持ち、リサイクル可能な有機フォトレドックス触媒～



本学高等先鋭研究院異分野基礎科学研究所（RIIS）の田中健太助教と、大学院自然科学研究科の安藤早春大学院生（当時）らは、強い還元力を持つ安定なフェノチアジン有機フォトレドックス触媒の開発に成功。この触媒は青色LEDを光源とした種々のフォトレドックス触媒反応に適応可能であり、これまでのフェノチアジン触媒では難しかった触媒のリサイクル化を達成。これにより、青色LEDを利用した多様なフォトレドックス触媒反応の開発が期待されます。

J-PEAKSでの取組である「先鋭研究群」には、「植物・光エネルギー開発拠点」を形成し、クリーンエネルギー創出など新規の技術開発に取り組んでいます。



安藤大学院生（当時） 田中助教



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1224.html

TOPICS
4

富樫庸介教授(医)がAMED「令和6年度肝炎等克服実用化研究事業」に採択

本学学術研究院医歯薬学域（医）腫瘍微小環境学分野の富樫庸介教授が、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の「令和6年度肝炎等克服実用化研究事業」に、「ミトコンドリア異常に注目したメタボリック関連脂肪性肝疾患（MASLD）の病態解明・新規治療開発」という題目のもと、採択されました。

J-PEAKSにおいてもヘルスケア分野を含めイノベーション創出から社会変革を起こし、Well-beingの向上を戦略的に進めています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13092.html



TOPICS

5

「技術」から研究開発・イノベーションをマネジメントできる 技術職員の育成プロジェクトを始動～プロジェクトマネジメン ト能力を持つ技術職員の高度化を強化推進～

世界最大のプロジェクトマネジメント協会(PMI)のPMI日本支部の藤井新吾副会長と組織拡大委員会でPM基礎研修プログラムを担当する石塚幸夫代表、鳥本明男サブリーダーが来学。本学総合技術部のメンバーらとプロジェクトの初会合を開催しました。

J-PEAKSでは、プロジェクトマネジメント(PM)の能力を育成し、その能力を自身が有する技術ノウハウと融合することで、「技術」から研究開発・イノベーションをマネジメントできる技術職員の高度化を推進しています。技術人材の高度化により、イノベーション創出の知と技の集積拠点化、学内外で活躍できるナレッジワーカーとして社会変革を牽引します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13056.html



岡山大学 総合技術部



TOPICS

6

上原孝教授(薬)がAMED「令和5年度新興・再興感染症 に対する革新的医薬品等開発推進研究事業」に採択



本学学術研究院医歯薬学域(薬)の上原孝教授が、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の「令和5年度新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業」に、「DNAメチル化酵素のS-ニトロシル化修飾を特異的に抑制する低分子化合物を用いた新型コロナウイルス感染後遺症治療法の開発」という題名のもと、採択されました。

上原教授や岡山大学病院では、新型コロナウイルス感染症の診療や調査研究等を精力的に実施しています。今後もWell-beingの向上等に資する研究開発を進め、J-PEAKSのHuman Healthを実現します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13073.html

TOPICS

7

おかやまデジタルイノベーション創出プラットフォーム (OI-start)を発足！

本学は岡山県と連携し、産学官がタッグを組んで主に先端デジタル技術を活用したイノベーションを創出し、その実践を通じて創出に貢献する人材を育成することで、県内の企業等の生産性や魅力の向上、若者の県内定着・還流を推進するため、県内企業、大学等の研究者及び学生が組織・分野の枠を超えて共創する「おかやまデジタルイノベーション創出プラットフォーム」(略称: OI-Start オーアイ・スタート)を発足します。

J-PEAKSでは、地域の“思い”を先取りした研究・イノベーションの枠組みによって社会変革を起こす取組を進めています。本学の「総合知」を活用し、産業界を巻き込みつつ、ありがたい姿・未来への実現を加速させます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/event/event_id3365.html



TOPICS
8

平沢晃教授(医)がAMED「令和6年度革新的がん医療実用化研究事業」に採択

本学学術研究院医歯薬学域(医)臨床遺伝子医療学分野の平沢晃教授が、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の「令和6年度革新的がん医療実用化研究事業」に、「国内完結型全エクソーム解析技術による遺伝性腫瘍診断プログラム医療機器の開発」という題目のもと、採択されました。

革新的な治療薬や診断・予防のためのバイオマーカーなどの開発・実用化を目的とした研究を加速させ、社会変革を起こし、人々のWell-beingの向上等を実現する取組を推進します。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13046.html

TOPICS
9

創薬分野での起業をテーマとしたセミナー「スタートアップ成功を目指して～スタートアップ事例とGAPファンドの紹介～」を開催



創薬分野でのスタートアップ起業をテーマとしたセミナー「スタートアップ成功を目指して～スタートアップ事例とGAPファンドの紹介～」を開催しました。

本学研究・イノベーション共創機構スタートアップ・ベンチャー創出本部が、教職員・学生のアントレプレナーシップ精神を涵養するとともに、スタートアップ起業を後押し等を目的に企画。国内を代表するVCや海外の実践的な取組を交えて盛大に開催しました。

J-PEAKSで新設した研究・イノベーション共創機構では、スタートアップ・ベンチャー創出本部を設置。技術シーズ・ビジネスプランの事業化に向けたアドバイス、経営相談先の紹介など、強力に支援しています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13055.html

TOPICS
10

岡山大学発ベンチャーの株式会社ABABAが一般社団法人日本経済団体連合会に入会

5月1日、岡山大学発ベンチャーの株式会社ABABAが、3月1日付けで一般社団法人日本経済団体連合会(「経団連」)に入会を発表しました。

岡山大学発ベンチャーの経団連入会は初めてとなります。また、入会時の経営者の年齢が史上最年少であり、かつ創業4年目での入会は西日本に本社のある企業としては史上最速となります。

同社の代表取締役社長CEOを務める本学大学院社会文化科学研究科の久保駿貴さんは「この度、学生ベンチャーでまだまだ未熟でありながらこの早さで会員となれましたこと、たいへん嬉しく思っております。経団連の一員として信頼を更に積み重ね、より一層の責任を持ってサービスを提供していく覚悟です」とコメントしました。

J-PEAKSでもスタートアップ・ベンチャー活動をKPIとしており、今後もさまざまな施策を戦略的に実施します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13087.html



TOPICS
11

福島イノベーション・コースト構想推進機構アドバイザーに 佐藤法仁副理事・副学長・上級URAが就任～地域から未 来につながる「新結合」を生み出す活動を強化促進へ～

本学の佐藤法仁副理事・副学長・上級URAが、福島県の公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構（本部：福島市中町、理事長：斎藤保）のアドバイザーに任命されました。

福島イノベ機構と本学は、立ち位置や取組など、新たな価値を創出していくなどで共通点が多いです。また本学は東日本大震災の支援や福島国際研究教育機構（F-REI）の委託研究も受けています。

J-PEAKSの活動の好事例は学内だけでなく「外なる場」への展開が必要です。福島イノベ機構など他地域へ横展開し、我が国の科学技術・イノベーションや人材・産業育成などを盛り上げていきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13101.html

TOPICS
12

2024年度OU-SPRING認定証授与式を挙行～大学院生 を「研究者」と捉え、研究とキャリアパスを積極的にサポ ート&時代にマッチした大学院・人材育成改革を推進へ～

「2024年度岡山大学次世代研究者挑戦的研究プログラム（OU-SPRING）認定証授与式」を行いました。

OU-SPRINGは、本学の大学院博士課程在籍者を対象にした本学独自の「岡山大学若手研究者育成支援パッケージ」のもと、さまざまな取り組みで研究力向上とキャリアパスの確保などを支援する制度です。授与式では、各自が自分自身や研究について1分間でプレゼンテーションする「フラッシュ・トーク」を実施し、互いの交流を深めました。

本学は博士後期課程学生を「研究者」として位置づけています。優秀な人材の確保や将来の我が国の科学技術・イノベーション創出を担う人材の処遇向上とアカデミアに限らず産業界やスタートアップ・ベンチャーなど多様なキャリアパスの支援を、全学的な戦略の下で一体として実施します。さらにJ-PEAKSを活用し、博士人材のより有益な活用、そのための大学院改革に取り組みます。



参考 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)」の採択について
https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/press_r5/press20240327-1.pdf



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13105.html



TOPICS
13

「岡山大学技術統括監理本部」辞令交付式及び運営協議会を開催～技術の力で社会変革を！我が国の大学初の取り組みを始動～

本学は今年度から、総合技術部、施設企画部、岡山大学病院医療技術部を統括する技術系組織「岡山大学技術統括監理本部」を設置しました。

国立大学法人における技術職員は、教育系や研究系、施設系、情報系、医療系などさまざまな系統が存在し、所属している組織も学内でバラバラとなっている場合も多く見られます。

技術統括監理本部は、昨今の大学法人改革や科学技術・イノベーションの振興等において、これらさまざまな系統の技術職員を“国立大学法人”の視点から一元的に取りまとめる組織です。国立大学法人においては、なかなかできない組織組成です。

同本部は、プロジェクトマネジメントスキル、トランスファラブルスキル、技術コンサルティングスキルなどを磨きつつ、かつその人材を高度化させる持続的な仕組みを法人全体として戦略的に実施し、技術の力で社会変革を起こす取組を進めます。本学の研究力の向上やイノベーション創出強化、さらには技術職員の「高度化」を強力に推進し、学長を技術総監としたトップマネジメントのもと、法人として戦略的に技術職員の運用を進め、技術職員・組織のあるべき姿を実現します。そして、本学だけではなく、我が国の科学技術・イノベーションの未来を拓く技術職員の先導役となるようにJ-PEAKSの取組として実施していきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13111.html



研究活動の“憲法”ともいえる「岡山大学研究ポリシー」の改正

技術職員を研究従事者との研究パートナーと位置づけ、研究を推進する点で重要な人材であるとともに、社会に対して技術リテラシー向上や普及等を担う技術マネジメント人材として、その育成を広く社会や他機関とともに積極的に行う。

〇どういう点で大学「初」なのか？

- ①あらゆる系の技術職員を一元的に取りまとめた組織である点【組織力の強化】
- ②学長（技術総監）が直接マネジメントする点【トップマネジメント】
- ③高い技術監理力を持つ人材を「技監」として任命した点（大学に「技監制度」を初導入）【高位のキャリアパス制定】
- ④技術職員が副理事・副学長と同位（技術副総監）に就き、大学法人経営に積極的に関与する点

【大学法人経営への参画】

などなど

「当たり前のように」
教員が就くポスト
を技術職員等へ

岡山大学技術統括監理本部
OKAYAMA UNIVERSITY



那須保友技術総監
（学長）



佐藤法仁技術副総監
（副理事・副学長）

同位



田村義彦技術副総監
（総合技術部長）



「名誉技監」
称号創設
退職後のキャリア
パス等への後押し

田村義彦技監
（教育研究系）
（総合技術部長）

平奥秀幸技監
（施設系）
（施設企画部長）



本田貢技監
（医療系）
（医療技術部長）



参考 岡山大学技術統括監理本部の設置について～「技術」から科学技術・イノベーション、社会変革の更なる強化促進のための国立大学法人初の挑戦～

https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/press_r6/press20240523-2.pdf



TOPICS
14

谷岡真樹准教授(医)がAMED「令和6年度医療機器等研究成果展開事業(開発実践タイプ)」に採択

本学学術研究院医歯薬学域(医)AI人材養成産学協働プロジェクトの谷岡真樹准教授が、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の「令和6年度医療機器等研究成果展開事業(開発実践タイプ)」に、「非侵襲で簡便に胸膜癒着を判別する音響機器開発」の研究開発課題名のもと、採択されました。

AIと医療を掛け合わせたmedtechはJ-PEAKSでも中心的な取組です。いままでにない革新的な研究開発で社会のWell-beingの向上等を推進します。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id13090.html



イテオシの研究設備



中四国地域に初導入となるクライオ電子顕微鏡「KriosG4,330kV」を本学高等先鋭研究院異分野基礎科学研究所(津島キャンパス)に設置し、令和6年2月から共同利用を開始しました。

本装置は、結晶化せずにタンパク質の溶液試料を用いてイメージを収集し、単粒子構造解析による原子分解能の構造解析が可能となり、構造生物学関連研究の大きな発展が期待されます。

また、学外の皆様もお使い頂けますので、ぜひご利用ください。研究設備機器共用システム「コアファシリティーポータル(CFP)」の以下のURLから閲覧、予約・利用が可能です。このほか本学では、クライオトモグラフィの導入も計画しています。

J-PEAKSの取組として、クライオ電顕や大型分析装置等の中四国の機器共用ネットワーク拠点の構築や、先端設備の整備、技術人材の高度化等を通じて、イノベーション創出の「知」と「技」のメッカを目指しています。どうぞ岡山大学にご期待ください！

参考 クライオ電子顕微鏡を中四国地域に初導入！

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id714.html



岡山大学

OKAYAMA UNIVERSITY

世界への扉を開く

研究装置や共同利用の設備などに関するお問い合わせはこちらへ：cfp@okayama-u.ac.jp



参考 <https://corefacility-potal.fsp.okayama-u.ac.jp/>